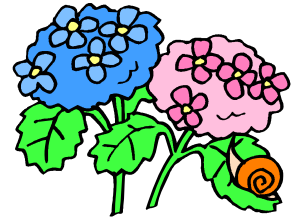


マルトミです

6・7月号

日ごろのご愛顧に心より御礼申し上げます。



お知らせ

- ☆ 6月よりショールームでは、草刈・芝刈機関係を中心に各種商品を展示しています。話題のホンダ ガスパワー発電機「エネポ」や電動カー・モンパルなども、実際に使い心地もお試しいただけますので、ぜひお出かけください。
- ☆ 修理についてもお任せください。最近はやそで買われた商品の修理のご依頼もどんどん増えています。修理のお見積は無料ですのでお気軽にどうぞ。
- ☆ 7月10日(土)・11日(日)は 当社恒例、夏の感謝祭を開催致します。豊富な商品展示に加え、大人気の「みどりの市場(日曜限定)」やクワ、刃物の修理コーナーなど、今年も賑やかに計画していますので、どうか皆様でお出かけ下さい。

マルトミカレンダー (6月～8月) 赤色は休業日

6月							7月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30					
							※ 10・11日 感謝祭													

新潟県認定農業機械整備工場(大)・ヤンマー農業機械整備士工場・ホンダ ベスト特約店



株式会社 マルトミ

本社: 上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com

ホームページ www.maru-takada.com

刈払機の安全な使いかた。

草刈のシーズンを迎え、刈払機を使われる機会も多いかと思いますが、十分に注意されていることとは思いますが、万が一にもけがなどされないよう、気をつけてお使いください。安全に作業するために特に大切と思われることをあげておきますのでご参考にしてください。



- ① 体調の悪いときは作業をしない。
- ② すそじまり・そでじまりの良い草刈作業に適した服装に加え、保護メガネ・防振手袋・作業靴などを着用する。
- ③ 作業前に各部の点検を行う（特に刈刃の取付状況）。
- ④ エンジン始動時には、周囲に人がいないことを確認する。
- ⑤ エンジン始動時には、刈刃が地面に触れていないことを確認する。
- ⑥ 刈刃を地面に当てて小石などを飛ばさないよう注意する。
- ⑦ 作業中は近くに人を近づけない。
- ⑧ 傾斜地での作業は一步ずつ足場を確認してすべらないように行う。
- ⑨ 操作カンを離すときは必ずエンジンを止める
- ⑩ 機械の調子が悪くなったらすぐに作業をやめてエンジンを止める。

なお、作業シーズンが終わり長期間格納するときは、燃料タンク・気化器内部の燃料を抜いておくと、次回使用されるときもトラブルなく快適に始動できます。

ご不明の点などありましたらお気軽におたずね下さい。

刈払機を使いたいけれど回転する刃がこわいという方には、刈刃の代わりに**ナイロンカッター**の使用をおすすめします。ナイロンのひもを回転させて草を刈るので、万一定などに当たっても安全です。

また、普通の刈払機の先の部分を取り替えるだけなので、使われる方や草の状況などによって使い分けることもできます。（ゼノア、共立製 3,500円より）



安全を考慮して、こんな刈払機もできました。

衝撃センサー付刈払機 共立SRG2610

両手ハンドル・ループハンドル・ツングリップ。特価63,000円
作業中転倒したときや、刈刃が何かに当たってはね返ったりしたときに、その振動を感知してエンジンが止まる最新の刈払機です。特に林内や傾斜地など厳しい環境で作業される方におすすしめします。

ハスクバーナ・ゼノア株式会社の 土肥道典社長が御来社下さいました。

チェンソー・刈払機など小型農林業機械の大手ブランドであるゼノアが2007年にハスクバーナ・ジャパンと合併して誕生した新会社、ハスクバーナ・ゼノア(株)の土肥道典社長が4月22日に当社を御訪問下さいました。同行された秋吉国内営業本部長、担当の大島さんも交えていろいろ楽しいお話し、ためになるお話しをお聞かせいただき、私たちも今後のゼノア製品拡販に向けてますます自信を深めることができました。

さん

お忙しい中をご訪問いただき、有難うございました。



右から2人目が土肥社長、左へ秋吉部長、大島さん

昆虫の展示が変わりました。

6月よりショールームの昆虫展示を、これまでの蝶から甲虫に変えました。今回の内容は、「奇妙なすがたの甲虫たち」と「キバを持つ甲虫」です。私たちの身近な種類と同じ仲間でありながらずいぶん変わった姿をしたものや、クワガタをはじめ いろんなキバを持つ甲虫たちをぜひご覧下さい。



お客様訪問

上越市 乗国寺 清水源之様・耀子様

今回は、乗国寺の住職 清水源之さんと奥様の耀子さんをお訪ねしました。お二人は、広大なお寺の敷地を管理するかわら、その中にある豊かな自然も大切に、また楽しまれています。

ご主人の趣味は、寺内に生える竹を使った竹炭作りです。耀子さんが毎春 いろんな木や草の新芽を摘んでつめ合わせる「春パック」とともに ご近所や友人宅に配られ、たいへん皆さんに喜ばれているそうです。「春パック」のおススメの食べ方はかき揚げとのことですが、実際の味も

さることながら、なによりも春の雰囲気を楽しむアイデアとして素晴らしいと思います。



清水さんには除雪機や耕うん機などいろいろお買い上げいただいておりますが、『その中で一番買ってよかったと思うのは「焚き火どんどん」。木の枝や落ち葉を燃やしていても、本当に驚くほど煙が出ないので、周りを気にしなくてすむのが嬉しいです。』とコメントを戴きました。清水さん、どうも有難うございました。

← 大活躍の「焚き火どんどん MP200」。よく燃えています。



キショウブ 美しい侵入者

天候不順で遅れていた田植えも、平野部ではほとんど終わって苗も伸び、用水は豊かな水であふれています。そんな風景のそこかしこに、鮮やかなクリーム色の花の一群が目につくようになりました。これはキショウブの名で呼ばれるアヤメやハナショウブのなかまの植物です。いたるところの水辺に繁茂し、本来なら雑草として除草や草刈の対象になるところでしょうが、花が美しいためか、そこだけ残されていることも多く、よく水田や残雪の山などをバックにした写真などに登場しています。



黄菖蒲のそこらに咲ける道端の

小川流れて青田へ入りぬ

岡 麓

ところで、初夏の景色によく似合ったこのキショウブ、実はレッキとしたヨーロッパ原産の外来種だということです。驚いてしまいます。わが国に入ってきたのは明治になってからで、最初はあやめの仲間にはない黄花が珍しく、観賞用として喜ばれたことでしょう。この植物は常に水辺に生え、花が終わって実が熟すころになると、実をつけた茎ごと水面に倒れこむ性質があり、こぼれた種子が流れに乗って広い範囲に散布されます。その結果、今では北海道から九州まで全国に広がり、旺盛な繁殖力でどんどん増えて在来の植物を脅かすほどになってしまいました。花がきれいだからといって油断は出来ません。イギリスではその目立つ花弁を「旗」にたとえてイエロー フラッグと呼ぶそうです。現地では、かつてこの根から黒色の染料をとったり、第二次世界大戦のときドイツに占領されていたある島で、その種子をよく煎ったものをコーヒーの代用品に使った記録もあるそうです。

余談ですが、外来種でありながら日本の風景に溶け込み、あたかも古くからそこに存在し

ていたかのような印象を与える植物はキショウブだけではありません。太宰治「富嶽百景」の『富士には月見草がよく似合う』の有名な文章で知られるツキミソウ、これも外来種です。これは植物学的には北米原産のオオマツヨイグサのこととされています。そのオオマツヨイグサもいまではすっかり少なくなり、ヨーロッパ産のメマツヨイグサに取って代わられているようです。でも、そんな面倒なことは考えず、文学として気楽に楽しむのが一番良いのかも知れません。



撮影：長谷川 康雄